

第3章 町民の健康と生活習慣の現状

1 人口・高齢化率の推移

当別町の人口は、平成5年から平成7年までの人口急増期間を経て、平成12年の20,740人をピークに緩やかな減少傾向にあります。

65歳以上の高齢者の人口は、平成16年には3,958人となり、当別町人口の19.6%を占めています。

年間の出生数は平成15年には128人と減少傾向にあります。

全道・全国と同様、今後も少子・高齢化が進んでいくことが予想されます。



(夏至祭の様子)

2 死亡の状況

当別町における平成14年の死因順位は、第1位が「悪性新生物(がん)」30.6%、第2位が「心疾患」12.9%、第3位が「脳血管疾患(脳卒中)」12.2%となっており、これらの3大生活習慣病の割合が55.7%を占めています。

また、第7位の「自殺」6人(4.1%)は、自殺の死亡率(人口10万対)で29.2人となり、全道26.7人を上回っています。平成8年から平成12年の自殺の死亡率では、全国、全道より下回っていますが、自殺者の多くが働き盛りの男性であり、社会的損失という意味では特筆すべき課題です。

悪性新生物の部位別内訳では、第1位が「肺」26.7%、第2位が「胃」17.8%、第3位が「膵臓」11.1%、第4位が「肝臓」・「大腸」8.9%となっています。

ここ数年の傾向として、これら5つの部位が上位を占めています。